

## 嬭恋村グランドデザイン計画策定に伴うパブリックコメント公募結果について

募集期間 令和8年7月13日から令和8年7月31日

応募総数 1件

### 意見概要及び意見等に対する村の考え方

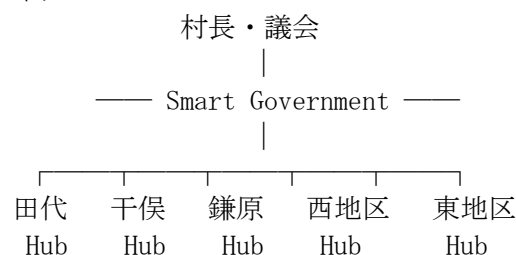
#### 行政のシステムについて

「嬭恋村」という行政単位には現在でも一定の必要性がありますが、その存在意義を再定義し続けなければならない時代に入っています。嬭恋村は行政上はひとつの村ですが、地域構造を見ると「多核型自治体」の典型例です。つまり、「一つの中心へ集約する」よりも、「複数の拠点をネットワークで結ぶ」という方が地域の実情に合った発展モデルになり得ると考えられます。現在の役場をどこに置くかという議論以上に重要なのは、村民が行政サービスを受けやすいかどうかです。結論としては、5つの旧小学校区（東・西・田代・干俣・鎌原）ごとに、住民窓口となる5つのスマートサテライトを設置し、「小さな役場」と結ぶことを提案します。

一つの役場、五つのハブ、どこでも同じ行政サービス。行政の意思決定は一体で行いながら、住民サービスは地域ごとに提供。

すべての拠点が同じクラウドシステムでつながり、どこでも同じ情報にアクセスできます。

#### イメージ



私は、この構想の最大の価値は、「役場へ住民が行く」という発想を、「行政サービスが住民の近くへ行く」という発想に転換できることだと考えます。人口減少や高齢化が進む地域では、「役場をどこに置くか」という議論だけでは限界があります。スマートサテライト役場なら、行政の一体性を維持しながら、住民に最も近い場所でサービスを提供することができ、多核型自治体である嬭恋村の地域構造とも調和しやすいモデルになり得ます。次なる大合併の時代に、嬭恋村という行政単位が消滅した場合でも（50年後はその可能性が大）、スマートサテライトのシステムと地域コミュニティは存続します。

#### シビックセンターについて

とはいえ「小さな本庁舎」は必要となりますし、複合施設としてのシビックセンターの設置は賛成です。ドライに年少人口の人口重心で立地は決めるのがベターだと思います。ただし、現役世代は重税に苦しめられており、これ以上、イチから新たな施設を建設するには大きな抵抗があります。私はシビックセンターに関しては、サーラ嬭恋と隣接する東部小学校（もしくは、嬭恋高校）の利活用が最も現実的と考えます。上信道沿いという立地は、村外への広域交通という点では利点がありますが、住民サービスという点では利点はありません。したがって、上信道沿いへはシビックセンターを建設すべきで無いと考えます。三原地区は東のゲートウェイであり、群馬県側の行政的観点としても相応しい場所でしょう。また、嬭恋祭りや文化祭の開催地としても「嬭恋」を統合する象徴的な場所として相応しいでしょう。なお、小学校については西部

貴重なご意見として参考にさせていただきます。

今後の、整備箇所等の具体化に向け、貴重なご意見として参考にさせていただきます。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>小学校（もしくは孺恋中学校）と同じ場所へ統合し、大笹・大前地区を「子育て地区」とすることで、東西地域間の不均衡が無いようにする必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                         |
| <p><b>道の駅について</b><br/> 孺恋村に建設する道の駅は、一般的な「休憩施設」ではなく、村の将来戦略を担う拠点として考えるべきだと思います。孺恋村には、日本一のキャベツ産地、山岳・高原観光、温泉、広大な自然という強みがあります。一方で、人口減少や広い村域という課題もあります。そのため、道の駅には複数の役割を重ねることが重要です。具体的には、①村のゲートウェイ（玄関口）、②農業の拠点（「日本一のキャベツの村」を体感できる場所）、③山岳・アウトドアの拠点（モンベル等のアウトドアショップを併設）、④防災拠点（浅間山大規模噴火時の救助拠点）、⑤地域交通のハブ、⑥スマートサテライト役場（本庁舎被災時のバックアップ）などの機能です。立地に関しては、上信道沿線では田代地区が唯一、全ての点を満たしています。田代インター付近は浅間山の大規模噴火のハザードマップの被災エリアから唯一外れた立地となります。田代地区は西のゲートウェイであり、上信道が全線開通した際のポテンシャルの高さもあります。愛妻の丘やカラマツの丘などの「孺恋らしい景観」が広がっており、道の駅の設置場所として相応しい場所でしょう。</p>                       | <p>今後の、整備箇所等の具体化に向け、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>                                                                                                          |
| <p><b>鎌原観音堂周辺整備構想・浅間ジオパーク構想</b><br/> ネガティブな意見になります。そもそも鎌原地区に位置するこの2つの構想は分けずにひとつの構想で良いと思います。地域の特徴としては、鎌原集落を除けば、別荘住民が多数派を占めるエリアでもあり、孺恋村内でありながら「孺恋」という意識も低めのエリアです。つまり、村外の人間からしたら「孺恋」というよりは「浅間」や「軽井沢」を想起させるエリアになり、孺恋ブランドの向上には100%直結していません。このエリアに関しては、既に観音堂周辺に施設が整備されているため、これ以上は行政主導でテコ入れするのではなく、民間の活力に任せればよい（行政の役割は民間をコントロールするルールをつくること）と考えます。ジオパークに関しては継続的な費用がかかりますし、一方で、「観光客が何万人増える」といった効果が保証されるわけではありません。これまでも多大な予算が割かれてきたと思いますが、世界ジオパークに関しても、認定そのものが目的になることの無いようにしていただきたいです。</p>                                                                | <p>ご指摘のあった2つの構想は、抱える要素が異なることから分けた整理を行っています。一方で、隣接する位置関係にあることから一体的な検討が必要である旨は認識しておりますので、ご指摘いただいた内容につきましては、今後の、整備方針や運用のあり方について、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| <p><b>次世代農業基盤整備構想</b><br/> DXの導入は進めていくべきですし、現役農家は既に新しい方式を受け入れられる向上心ある世代です。ただし、孺恋村の本当の強みは「農業だけではない農村」であることだと思います。孺恋村のような高原農村では、次世代農業は「新しい機械を導入すること」がゴールではありません。「日本一のキャベツ産地」を土台に、デジタル技術・広域物流・環境保全・地域ブランドを組み合わせ、次世代にも選ばれる農村をつくるのが本質です。その意味で、次世代農業は「農業政策」ではなく、農業を核にした地域づくりの戦略として位置付けることが、孺恋村には最もふさわしい方向性だと考えます。キャベツを中心とした農業を柱にして、交通・観光・スポーツ・文化・教育を統合する孺恋モデルを確立すべきです（キャベツマラソンは成功例だと思います）。本題からやや逸れてしまっていますが・・・総合的な学習の時間を使い「キャベツ栽培」を村内の学校教育の科目に取り入れていただきたいです。特別講師は先生ではなく将来にキャベツ農家の跡取りとなる子供たちです。彼・彼女らが主役となる機会をつくり、農家の自尊心を高めていく仕掛けも、DX導入と同時に必要と考えます。</p> | <p>今後の、取り組みの具体化に向け、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>                                                                                                           |
| <p><b>最後に</b><br/> 一村民が意見を上げる機会をつくっていただき有難うございます。03村に対するニーズに関しては、回答者の年齢構成を示したクロス集計で出していただけると幸いです。”本計画は「おおむね20年後」の村の姿</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>計画書においては、村民意見の総合的な傾向を掲載する趣旨のため、基本集計結果を掲載し整理し</p>                                                                                                     |

|                                                                                                  |                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>を描くものとして位置づけます”と書いてありますので、「おおむね 20 年後」にも多くが元気に存命している世代（概ね 50 代以下）の村民の意見が大切にされることを願っております。</p> | <p>ております。一方、年代ごとの意見の特性に着眼した整理・検討が必要である旨は認識しておりますので、ご指摘いただいた内容につきましては、今後の、取り組みの具体化に向け、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|